

NEC / NEC ネクサソリューションズ

国内ホテル初の全面的な IP 電話システムを マンダリン オリエンタル 東京に構築

NECおよびNECネクサソリューションズは、マンダリン オリエンタル 東京に、全客室用（179室）と業務用あわせて1,300回線規模のIP電話システムを中心としたブロードバンド基盤を構築した。国内ホテルにおけるIP電話システムの全面導入は、本件が初めて（NEC調べ）である。

今回構築されたIP電話システムは、NEC製のSIP対応テレフォニーサーバ「UNIVERGE（ユニバージュ）

SV7000」を中核とした高度なセキュリティ機能を有するブロードバンド基盤によって構築されている。同ホテルにおいては、本基盤を活用し、全館無線LAN接続、客室内高速インターネット接続、ビデオ・オンデマンドなどのサービスも提供している。さらに、本ブロードバンド基盤を活用することにより、マルチメディアを活用した新たなサービスの提供が可能となった。

2005年12月に開業したマンダリン オリエンタル 東京は、世界13カ国に22のラグジュアリーホテルを運営するマンダリン オリエンタル ホテルグループが日本に初進出したホテルである。マンダリン・オリエンタルは、世界各地で賞賛を集める“Legendary Service-伝説と呼ばれるサービス”を提供するために、伝統と最先端の設備を融合した顧客サービスの実現や業務の変革に、日々取り組んでいる。今回、構築したブロードバンド基盤は、この取組みの一環である。マンダリン オリエンタル ホテルグループでは、2009年までにボストン、シカゴ、ラスベガスなどの都市で8ホテルの開業を予定しており、今後も常に最高品質のサービスを提供するために、最新技術を取り入れたブロードバンドなどのITテクノロジーの活用を継続的に進めていく予定である。

日本電気(株) TEL : 03-6405-0470
NECネクサソリューションズ TEL : 03-5730-5352

シスコシステムズ

グローバルなネットワーク基盤の構築を目指して 味の素がシスコのIPコミュニケーションを導入

インターネット向けネットワーク機器ベンダーの最大手であるシスコシステムズは、日本発の世界企業として、食関連事業をはじめ、アミノ酸を中心としたファインケミカル事業、および医薬品事業をグローバルに展開している味の素の東京・京橋本社ビルと周辺の入居ビルへの同社のIPフォンの納入を完了したことを発表した。味の素は、国内では、まず2005年7月から、本社ビル周辺と東京支社で、シスコシステムズのIPフォンを導入した。2005年度の導入合計台数は、2006年2月までに約1,900台に上る。また海外では、アメリカの一部とイタリアで導入済みである。

味の素は、2005年に策定した05/10中長期計画において「グローバル経営」を基本戦略のひとつに掲げ、その実行にあたりグローバルなネットワーク基盤の構築に取り組んでいる。これにより、アメリカ、タイ、フランスをはじめ、グループ会社の主要拠点をつなぐ計画を進めており、これに伴い、段階的にIPフォンも導入していく計画である。味の素がシスコシステムズの製品を選択したのは、グローバルな最適化を重視したからである。ローカル最適なシステムではなく、グローバルな標準を選定・導入する方法を採用し、その標準として、シスコシステムズのIPコミュニケーションを選択した。

味の素では、IPコミュニケーションの導入により、Click to Callやプレゼンス管理などを活用して、コミュニケーションの効率化を実現していく。そして、05/10中長期計画の基本戦略である、グローバル経営、創造経営、グループ経営、CSR経営を実現し、さらに「世界の人びとに信頼される、個性ある企業」として、世界市場で揺るぎない基盤の確立を目指していくと語っている。

シスコシステムズ(株) シスココンタクトセンター
TEL : 03-6670-2992

沖電気

遠隔映像モニタリングシステムを 京浜急行電鉄へ納入

沖電気工業（沖電気）は、京浜急行電鉄向けに本社社屋モニタリングシステムを受注し、納入した。本システムは沖電気の遠隔映像モニタリングシステム「VisualCast-SS（ビジュアルキャスト・エスエス）」をベースとしたもので、2006年1月から稼動を開始した。

京浜急行電鉄では、本社社屋のモニタリングシステムとしてセキュリティをより一層強化する一方で、システムの運用コストを削減することを検討していた。そのため、様々な映像伝送システムを比較検討した結果、IPによるデータ・音声・映像の伝送統合が可能となる先進性ととも、既存設備を有効活用できる経済性により、沖電気のVisualCast-SSの導入が決定された。本モニタリングシステムの主な特長は次のとおり。

- ◆中核のエンコーダ／デコーダ装置「VisualCast-SS VBOX-S」は、伝送映像をMPEG-4フォーマットに符号化し、高画質、低遅延のモニタリング映像の伝送を可能にした。
- ◆映像とともに各拠点の音声も伝送・録音できる。
- ◆全ての映像と音声を、24時間×1週間分サーバに蓄積できる。
- ◆蓄積した映像と音声は複数のモニター端末にて、任意の数拠点の映像を4分割した画面で見ることができる。
- ◆IPネットワークを使用することにより、従来のアナログ信号線の配線上の制約がなくなり、複数の場所で同一画面のモニタリング映像を視聴することが可能となった。その結果、社内の警備関係者のリアルタイムでの情報共有が実現した。

京浜急行電鉄では、これに伴い、カメラによるモニタリング拠点を従来の2倍以上に増強した。また、録画機能をデジタル化することで、テープ管理や入れ替えなどに伴う物理的、人的コストの削減も実現した。

沖電気工業(株) ブロードバンドメディアカンパニー
映像ソリューション第2部 TEL: 048-420-7012

富士通

但馬信用金庫が 小型手のひら静脈認証装置を採用

富士通は、但馬信用金庫（本店：兵庫県豊岡市）の非接触型手のひら静脈認証技術を採用した現金自動預払機（ATM）システムを構築することを発表した。本システムは、富士通が2006年3月9日に発表した小型（35ミリ×35ミリ）で高性能の非接触型手のひら静脈認証装置をATMに採用したもので、同年5月22日より全営業店で一齐にICキャッシュカードサービスを開始する予定である。なお、富士通の小型非接触型手のひら静脈認証装置が全営業店の全ATMに一齐導入されるのは、本件が金融機関として初めてである。

但馬信用金庫は、兵庫県北部を主な営業地域とする地域金融機関で「地域と共に飛躍しよう」を経営ビジョンに、永年地元中小企業の育成と地域の経済力向上に貢献してきた。昨今、盗難・偽造キャッシュカードの不正使用が社会的にも大きな問題になっている中で、地域金融機関として「何がお客様に対してより大きな安心を提供できるか」という問題を検討した結果、その答えが富士通の最新技術であると判断し、今回の採用に至った。

富士通の非接触型手のひら静脈認証技術は、高い認証精度や体内情報であることから、偽造が困難であり、外部条件の影響を受けにくいと、高い適用率を実現するなど、次のような特長を持っている。

- ◆手のひら静脈は、指や手の甲と比較して複雑かつ安定しており、本人拒否率0.01%、他人受入率0.00008%以下という高い認証精度を実現している。
- ◆適用率が高く、登録不可能な人がほとんどいない。
- ◆非接触型であるため、利用者の抵抗感が少ない。

但馬信用金庫は、この技術を採用したICキャッシュカードサービスの提供により、キャッシュカードの盗難および偽造などによる預金の不正引出しなどの犯罪を防止していくと語っている。

富士通(株) 関西営業本部 神戸支社 第二営業部
TEL: 078-361-2738

アークン

ぶららネットワークスが 法人向けマルウェア対策「AntiMalware-ASP」を採用

情報セキュリティベンダーとして「情報漏洩の55%は内部から」といわれている状況に対応して、より安全なeビジネスの実現に向けて世界水準の情報セキュリティ技術を提供しているアークンは、同社が提供している法人向けマルウェア対策「AntiMalware-ASP」を「アンチマルウェア for Business Plala」として、ISP事業を展開している、ぶららネットワークスが運営する「BUSINESS ぶらら」(<http://biz.plala.or.jp>)へ2006年2月23日より提供を開始した。

アンチマルウェア for Business Plalaは、アークンのマルウェア対策ソフトであるAntiMalware-ASPを利用した「BUSINESS ぶらら」のオンラインサービスである。AntiMalwareシリーズの1サービスであるAntiMalware-ASPは、22万種以上(2006年2月現在)のマルウェア(スパイウェア、ハッキングツールなどの不正プログラム/悪性コード、ウイルス、ワームなどの総称)全般に対応し、高い検出精度を誇り、専用クライアント管理コンソールを有したマルウェア対策ソフトの法人版である。海外産のマルウェアに加え、国産のマルウェア対策を強化し、情報漏えいなどの様々な危険から企業のPCと資産を守るサービスである。

一方、アンチマルウェア for Business Plalaは、インターネット接続環境があれば、AntiMalwareのクライアントプログラム、および専用クライアント管理コンソールをフル機能で即利用することが可能なオンラインサービスである。また、ASPサービスなので管理サーバ構築の必要なく、管理サーバの設営と運用に掛かる費用と手間を削減し、個々のクライアントユーザーのセキュリティ意識、設定に依存することなく、組織のセキュリティポリシーを統一のもと、強固なマルウェア対策を実現することが可能である。

(株)アークン 営業本部
TEL : 03-5294-6065

マークエニー・ジャパン

東芝ソリューションが 医薬情報担当者向けナレッジシステムにDRMを採用

マークエニー・ジャパンは、医薬品企業のMR(Medical Representative: 医薬情報担当者)向けナレッジシステムを提供する東芝ソリューションに、DRM(Digital Right Management: デジタル著作権管理技術)を提供した。そして、東芝ソリューションが医薬品業界向けナレッジシステムと連携した情報漏洩防止ソリューションの販売を開始した。

一般にMRは、業務上モバイルPCを社外に持ち出すことが少なくなく、モバイルPCの盗難などにより保存されている機密情報の漏洩が不安視されていた。また、PC内部で暗号化されている機密情報も、メールにファイルとして添付したり、USBメモリなどの外部記憶装置にコピーした時に暗号化が外されてしまう恐れがあった。

今回販売を開始した情報漏洩防止ソリューションは、MRが社内のLAN環境下で取得した情報をモバイルPCに保存する時に、電子データを暗号化し、一定期間で電子ファイルを自動消滅させるセキュリティ機能を付加したものである。また、社内LANに接続している間は、印刷を許可するが社外プリンタでは不許可といった印刷の制限や、コピー&ペーストの制限、保存・編集の制限、画面キャプチャおよびPrintScreenの制限をファイルごとに設定できるなど、強力な情報漏洩防止策を実現した。

暗号化ファイルは、Word、Excel、PowerPointなどのアプリケーションからそのまま利用できるため、導入前の運用状況を変えることなく、また、文書ファイルにアクセスするたびにパスワード認証を行う必要がない。さらに、操作履歴管理機能も具備されているため不正行為の抑止にもつながるなど、強固なセキュリティとシンプルな操作性を実現した。

(株)マークエニー・ジャパン 営業グループ
TEL : 03-3258-7219

マクニカ

為替どっとコムへ Web解析ソリューション「SiteCatalyst」を提供

半導体やネットワーク機器の輸入、販売、開発を手がけているマクニカは、外国為替保証金取引を個人投資家向けに提供している外為どっとコムに対し、米国オムニチュア社のWeb解析ソリューション「SiteCatalyst（サイトカタリスト）」を提供したことを発表した。

外国為替保証金取引は、24時間取引が可能であることやレバレッジ効果によって投資効率の高い運用ができることから、近年新しい投資方法として注目されている。また、2005年7月に施行された改正金融先物取引法により、投資家保護が強化され、さらに安心して取引ができる環境が整い、会員が増加している。しかし、24時間売買が可能になったため、Webサイトの運営、管理、分析においては、今まで以上に、安定性と即時性が求められるようになってきた。また、新規顧客獲得のために利用されている検索エンジンマーケティング（SEM）においては、登録検索キーワードの管理や活用方法が重要となっている。そこで、外為どっとコムでは、数あるキーワードのリアルタイム解析、検索エンジンサイトから購入した有料検索エンジンキーワードの効果測定、入札システムなどを検討した結果、検索エンジン広告の効果測定、アクセス数増加に伴うシステム投資が不要なASPサービスをもつサイトカタリストの導入を決定した。

サイトカタリストは、独自の解析データを専用サーバで収集することによりリアルタイムに解析を行い、ユーザーの経路解析、コンバージョン率、サーチキーワードなどを瞬時に求めることでWebサイトのROIを向上させていく。外為どっとコムは、このサイトカタリストにより「人気コンテンツやゲスト会員と登録会員の行動の違いなど、以前では把握できなかったことが明確になり、また、検索キーワードに対しての費用対効果についても細かく解析することができました」と語っている。

(株)マクニカ 経営企画室
TEL：045-470-9851

アイオナテクノロジーズ

テレコム・ソリューションの先進ベンダーが 「Artix」を導入

ミッション・クリティカルなIT環境に向けたハイ・パフォーマンス・インテグレーション・ソリューションのリーディング・プロバイダーであるアイオナテクノロジーズは、2006年2月、携帯電話や固定電話、さらに、IPサービスのキャリア企業向けのソフトウェア・ソリューションとサービスのリーディング・プロバイダーであるEvolving Systems社が拡張性の高いエンタープライズ・サービス・バス（ESB）であるIONAの「Artix」を採用したことを発表した。

今回のArtixが採用されたは目的は、キャリア各社の要件である柔軟性が高く、スケーラビリティに優れた特徴を活かして、サービス指向アーキテクチャ（SOA）をテレコムのIT環境へ適用するために、Evolving System社のアプリケーションのインテグレーションをサポートするためである。具体的には、電話番号インベントリと番号管理のアプリケーションであるNumeriTrackが、Webサービスとマルチプロトコル対応をサポートするためにArtixを利用する。その結果、Webサービスでのインテグレーションのために、その都度カスタマイズする必要もなくなり、CORBAのアダプタも不要となる。つまり、既存のシステム、アプリケーションやインフラに依存することなくNumeriTrackアプリケーションを導入することができるのである。

またArtixは、柔軟に構成変更が可能であり、小さなフット・プリントを実現する高い拡張性のプラグイン・アーキテクチャによって、Evolving Systems社のソリューションをサポートすることができる。このことは、テレコム業界でよく見られる異なるネットワークや異なるテクノロジーの間に新たなアプリケーションを効果的に導入していくことを指している。

日本アイオナテクノロジーズ(株) マーケティング部
TEL：03-3560-5616